

我が国の幼児教育の特質と九州女子大学附属幼稚園の 教育理念についての考察

黒田 耕司・今津 尚子

九州女子大学人間科学部人間発達学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2019年10月31日受付、2019年12月18日受理)

要 約

我が国の明治以降の近代幼児教育史においては、概して、幼児の「自発活動」に基づく自由主義的な幼児教育と、「しつけ」に基づく訓練主義的な幼児教育が行われてきた。そして、自由主義的な幼児教育の教育目標は、自発的、主体的に活動するという具体的な教育目標として、今日の幼児教育に継承されている。また、訓練主義的な幼児教育の教育目標は、身の回りの物を幼児に整理させるといった教育目標として継承されている。さらに、幼児教育においては、幼児の「自発活動」と「微笑」を伴った幼児と保育者との「共同感情」を育成することが重要な教育目標となるとされてきた。九州女子大学附属幼稚園においては、これまでその設立の精神に基づいてそうした教育目標が継承されてきたが、九州女子大学附属幼稚園を含めて、附属幼稚園の教育は、今後、女子大学の附属幼稚園としての特質によってさらに高められると考えられる。

【1】緒言

我が国では、1871(明治4)年に横浜に、そして1875(明治8)年に京都第三十区の小学校に幼児教育施設が設置されたが、それらは間もなく廃止されている。さらに、1872(明治5)年の学制においては、「幼稚小学」という幼児教育学校が構想されていたが、それは実現されることがなかった。従って、我が国の幼児教育は、1876(明治9)年に創立された東京女子師範学校附属幼稚園を起源として始まり、それに続き全国に拡大されていったとされている。⁽¹⁾

この東京女子師範学校附属幼稚園においては、フレーベル(Friedrich Wilhelm August Fröbel, 1782～1852)から直接に保育の方法を教えられた初代主任保姆の松野クララや、その後主事となった倉橋惣三らの影響によって、概して、フレーベルの精神を受け継いだ自由主義的な保育による幼児教育が行われた。⁽²⁾ そのフレーベルの幼児教育の理念は、彼が考案した「幼稚園」(Kindergarten)の概念に集約されるように、文字通り「子どもの庭」の教育の理念であり、植物が庭で育つように、最も高貴な植物としての子ども(Kind)が、自然の摂理に基づいて育つ「庭」(Garten)における教育の理念であった。⁽³⁾

一方で、1912(大正元)年には、東京女子師範学校附属幼稚園に次いで、我が国2番目の国立幼稚園として、奈良女子師範学校附属幼稚園が設立されている。しかし、これらの二つの国立幼稚園の教育方針は同じものではなかった。東京女子師範学校附属幼稚園では、子どもの「自由遊び」が保育の内容として重要視されていたのに対して、奈良女子師範学校附属幼稚園では、専ら教師が中心となった「訓練」による指導がなされていた。そこでは、「訓練という事は実は子供をして一方に益々良い習慣を得させ、それが他方に益々自由活動の余力を得しめる事に外ならぬことが明瞭となる」とされ、教師による子どもの「訓練」が子どもの活動を自由にするという理論に基づいた教師中心の幼児教育が行われていたのである。⁽⁴⁾

ここに、我が国における、子ども中心の「自由主義的な幼児教育」と教師主導の「訓練主義的な幼児教育」という幼児教育の二つの基本型が成立していたと考えられる。しかし、この二つの幼児教育の基本型は、その指導形態は対照的ではあるが、その基底においては、それらは共に幼児の「自己活動」を促進することを目指すものであるということにおいて、共通する本質をもつものであり、その後の我が国の幼児教育の特質を形成したものであると考えられる。そこで、本稿では、こうした我が国の幼児教育の特質が、戦後の九州女子大学附属幼稚園である九州女子大学附属幼稚園の教育理念にどのように反映され、活かされてきたかということについて考察する。

【2】我が国における幼児教育とその理念

東京女子師範学校附属幼稚園においては、「学齡未滿ノ小兒ヲシテ天賦ノ知覺ヲ開達シ固有の心思ヲ啓發シ身体ノ健全ヲ滋補シ交際ノ情誼ヲ曉知シ善良ノ言行ニ慣熟セシムル」として、幼児の「知覺」を開き、「心思」を啓發し、「身体」を健全にし、真心のこもった「情誼」を知らしめ、「善良な言行」に慣れさせることが幼稚園教育の理念であるとされ、知・徳・体のバランスのとれた幼児教育を開始した。そして、その教育課程は、当初はフレーベルの「恩物」を模範とした内容を基本とした。

しかし、明治後期の明治30年代頃からは、欧米世界の児童中心主義の自由保育の教育理論が導入され、その自由保育は、児童の「自発活動」を重視し、それまでのフレーベル式の幼児教育法が作為的であり、外から押し付けるきらいがあって、幼児の自然な活動には適切でないとして、幼児の自然な活動を主体とする遊戯を保育の中心とすることを主張するものであった。⁽⁵⁾

そして、大正期の幼児教育においては、自由保育、生活保育、プロジェクト法、誘導保育、分団保育等の様々な考えに基づく保育が行われたが、この時期において、児童中心主義の新教育運動の推進者であった倉橋惣三は、形式化した恩物主義の幼稚園教育を批判し、フレーベルの「自発活動」と創造性を重んずる教育課程にたちもどるべきことを主張した。こうして、我が国の戦前の幼児教育においては、幼児の「自発活動」と「自発性」を尊重することが強く唱えられていた。⁽⁶⁾

その後、戦前の昭和期においては、国家の要請が幼稚園の教育課程にも影響を与えていたにもかかわらず、幼児教育の指導法は変わることはなく、幼児の自由生活を中心とする保育の原理が一貫して流れていたとされている。⁽⁷⁾ そして、その指導法は、幼児の興味や特性に基づき幼児の自由で自発的な活動を重視する指導法として、戦後の幼児教育に継承されていったと考えられる。

そして、戦後の幼児教育は、「幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」という目的の下に開始され、明治以来の幼児教育の伝統である「幼児の自然の要求を重んじ、自由な、自発的な活動を重視する」ことを重点的に継承してきたと考えられる。1951（昭和26）年通知の「幼稚園の指導要録について」において、文部省は、幼稚園の指導要録の趣旨について説明しているが、そこで示されている指導要録の評価基準は、「自分からすすんでやる」（しごとの習慣）、「喜んで動植物を世話する」（自然）、「喜んで話を聞く」（言語）、「喜んで音楽を聞く」（音楽リズム）、「喜んで絵をかいたり物を作ったりする」（絵画制作）というように、「喜んで〇〇する」という基準を含むものであった。この「喜んで〇〇する」というのは、「興味」をもって「自主的」に行うということであり、戦後の幼児教育の特質は、「興味」に基づく「自発活動」を促進することにあつたことは明確である。

しかし一方で、明治前期には既に、幼児の特性に応じて「しつけ」を行うという幼児教育の理論が確認されている。例えば、東京女子師範学校附属幼稚園保姆の豊田英雄の指導の心得は、幼児の特性に応じて配慮をした「しつけ」を重視するものであった。それは、「礼を施す場合には能く注意して礼をなさしむべし」「幼児我意を言う時は余り烈しからず堅固に弱みなく温和に諭すべし」というものであった。⁽⁸⁾ こうして、明治20年代頃までの我が国の幼児教育においては、フレーベルの恩物と唱歌遊戯などを基準として、それを「しつけ」とともに消化した指導が行われていたと考えられる。

そして、その後、明治後期から大正期に、「しつけ」や「訓練」という面での指導にフレーベル式の指導が加味され、「幼児を指導する際には先ず第一に幼児が自ら要求する機会を与ふるか或は其の機会を作することを要す。複雑なる実習は、各児の個性に応じ適当に分解し常に幼児の其の事に興味を持たしむる事肝要なり」という指導方針をもつ幼稚園が多くなっていった。⁽⁹⁾ また、「幼児の自己活動を基準とするも幼児の心身は甚だ幼弱なものであるから、遊びの生活に於ても実行と感化とにより常に善良なる事例を示し良習慣を作り心情を正しからしむるようにならなければならない」という保育論も展開された。しかし、こうした訓練主義的な保育においては、「訓練は実は子供の活動を円滑にし自由にするものであり、決して之を束縛するものでない」という主張が底流にあつたと考えられるのである。⁽¹⁰⁾

こうして、明治期から戦後の我が国の幼児教育における基本理念は、幼児の生活を基礎にした幼児の「自発活動」に基づく教育と、生活訓練としての「しつけ」とを同時に含みもつものであつたと考えられる。

【3】九州女子大学附属幼稚園の教育理念

我が国の幼稚園は、1876（明治9）年に設置された東京女子師範学校附属幼稚園の1園から始まり、大正末には1000の幼稚園数を超えるものになっている。⁽¹¹⁾そして、戦後は、1947（昭和22）年に公布された学校教育法によって、幼稚園は、「幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」学校として規定され、その後急激に増設され、昭和30年代には5000を超える幼稚園数に達するものになっている。

こうした過程において、九州女子大学附属幼稚園は開設されている。九州女子大学附属幼稚園は、福原軍造初代理事長によって設置された福原学園を母体として、一貫性のある学風確立のための「自律処行」を学是として掲げ、知性を深め、徳性を高め、情操豊かな調和のとれた人間の育成を目指して設置された。そして、1963（昭和38）年に、九州女子大学附属折尾幼稚園が開園され、初代園長として福原ツルヲ先生が就任した。この折尾幼稚園の基本方針は、「幼児の自発性の確立を目指し、自律心と態度の獲得、生活と遊びへの意欲、豊かな感性と思いやりの心を大切に培い、豊かな人間性の育成を目指している」ものである。また、それは、「幼稚園の生活の中で園児が自発的、主体的に環境に関わりながら、直接的・具体的な体験を通して、人間として生きる力の基礎となる豊かな心情、物事に対する興味関心と、自らかかわろうとする意欲、健全な生活を営む上に必要な態度などが、一人ひとりの園児の中に培われるようにしている」ものである。それは、幼児が自発的、主体的に環境に関わりながら「自発活動」を積み重ねることによって、豊かな感性と意欲と体力と思いやりの心を育成するものである。⁽¹²⁾

そして、1970（昭和45）年に、九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園が開園された。初代園長は福原ツルヲ先生であった。この自由ヶ丘幼稚園は、福原軍造初代理事長の「人間の形成は母体に始まり、幼児期の教育によって性格づけられる」という信念を基にして設置された幼稚園である。そして、その教育目標は、「集団生活に必要な基本的生活習慣をきちんと身につけさせる」「幼児一人ひとりの心身の発達段階に即し、生活と遊びをとおした教育に専念する」「幼児の主体的な楽しい活動の積み重ねによって、豊かな心情・意欲・態度の育成に努める」等となっている。⁽¹³⁾

さらに、1965（昭和40）年に、福原軍造初代理事長によって、九州女子大学附属鞍手幼稚園が開園された。この鞍手幼稚園の教育目標は以下である。つまり、「①大きな声であいさつができ、5つの心（明るいこころ、素直な心、感謝の心、反省の心、積極的な心）を備えた子どもに育てます、②恵まれた自然環境の中で、日々、土に触れ水をやり、花や野菜などを育てることで、命の大切さが分かり、やさしい心を備えた子どもに育てます、③良い音楽を聴き、歌い、きれいな絵や美しい花などを見ることで、素直に感謝し、豊かな心を備えた子どもに育てます、④先生や友達の話をよく聞き、たくさんの友達の前でも、物おじせず話せるコミュニケーション能力が備わった子どもに育てます、⑤ひらがなや数字、英語に親しみ、知力と心がバランスよく備わった子どもに育てます、⑥園庭の遊具で遊び、走りまわり、飛びはね、そして泳ぎもできるたくましい体力を備えた子どもに育てます、⑦みんなと楽しく、仲良く、行儀良く、遊んだり食事をしたり、勉強もできる子どもに育てます、⑧幼稚園での団体生活を通して、自立心、協調性、思いやりを持ち、がまんすることができる強い子どもを育てます」という教育目標である。

また福原学園には、その他に、福原軍造初代理事長によって、1965（昭和40）年には、学校法人福原愛郷学園鞍手幼稚園が、1976（昭和51）年には、学校法人福岡育英学園浅川幼稚園が、1979（昭和54）年には、福原啓明学園光貞幼稚園等が開園されている。そして、以上の福原学園の附属幼稚園の教育理念は、他の我が国の全国の子供大学附属幼稚園と比較すれば以下のような特質をもっている。

我が国の全国の子供大学附属幼稚園14園の教育目標を分類すると、いくつかの共通した教育目標が掲げられている。そこで、それらの教育目標の中で、2園以上の園で共通に掲げられている教育目標を分類すれば表1のようになる。それらの教育目標は、「性格の形成」「健康と安全」「基本的習慣」「社会生活への適応」「宗教心・道徳性」「知的発達」の6つの教育目標の「領域」に大きく分類したものである⁽¹⁴⁾。そして、それらの教育目標は、さらに、「こころ」「自主性」「身体」「生活習慣」「人間関係」「表現」「遊び」「体験」「環境」「道徳」「知力・思考力」「興味・関心」の12の「概念」に下位分類したものである。

表1 我が国の女子大学附属幼稚園の教育目標

	領域	概念	教育目標の表現語句の例	園数
1	性格の形成	こころ	率直なつよい心、心の安定、明るく率直な、感性	5
		自主性	自発的、主体的に活動できる	3
2	健康と安全	身体	からだがじょうぶ、健康でたくましい	10
3	基本的習慣	生活習慣	身の回りの物の片付けや整理整頓の仕方を学ぶ、基本的生活習慣	2
4	社会生活への適応	人間関係	友達と仲よく遊ぶ、友達と仲良くできる、子どもたち相互のかかわり	10
		表現	思ったことははっきり話し、人の話をよく聞く、心豊かに表現する	5
		遊び	遊びの中で、自分で遊びを見つける	6
		体験	実体験の積み重ね、のびのび活動する、様々な経験や体験	4
		環境	環境を通して、自然に恵まれた環境の中で活動する	3
5	宗教心・道徳性	道徳	約束やルールを守る、道徳性	3
6	知的発達	知力・思考力	よく考える子ども、思考力の芽生えを培う	6
		興味・関心	ものごとに興味をもつ、興味や関心の強い子ども	7

この教育目標の分類から明らかなことは、第一に、幼児教育における伝統的な子ども中心の「自由主義的な幼児教育」の教育目標は、とりわけ「性格の形成」の領域における「自主性」の概念の中の「自発的、主体的に活動できる」といったような教育目標として、今日の幼児教育に継承されていると考えられる。そして、第二に、教師主導の「訓練主義的な幼児教育」の教育目標は、とりわけ「基本的習慣」の領域における「生活習慣」の概念の中の「身の回りの物の片付けや整理整頓の仕方を学ぶ」「基本的生活習慣」といったような教育目標として、今日の幼児教育に継承されていると考えられる。

そして、九州女子大学附属幼稚園においては、これらの6つの教育目標の領域におけるほぼ全ての教育目標が継承されているが、我が国に伝統的な「自由主義的な幼児教育」と「訓練主義的な幼児教育」の教育目標も重点的に継承されていると考えられる。

それは、例えば、折尾幼稚園の、「幼児が自発的、主体的に環境に関わりながら活動と体験を積み重ねることによって、豊かな感性と意欲と体力と思いやりの心を育成する」という教育方針に示されている。また、それは、自由ヶ丘幼稚園の、「幼児の主体的な楽しい活動の積み重ねによって、豊かな心情・意欲・態度の育成に努める」「自立心と協調性に富む子ども」「意欲的で興味関心の強い子ども」という教育目標に示されている。さらに、それは、鞍手幼稚園の、「幼稚園での団体生活を通して、自立心、協調性、思いやりを持ち、がまんすることができる強い子どもを育てる」という教育目標に示されている。

一方で、教師主導の「訓練主義的な幼児教育」の教育目標も、九州女子大学附属幼稚園の教育目標の中に含みこまれている。例えば、それは、折尾幼稚園の、「生活と遊びへの意欲、豊かな感性と思いやりの心を大切に培う」「幼稚園の生活の中で園児が自発的、主体的に環境に関わりながら、直接的・具体的な体験を通して、人間として生きる力の基礎となる豊かな心情、物事に対する興味関心と、自らかかわろうとする意欲、健全な生活を営む上に必要な態度などを培う」といった教育目標に示されている。また、それは、自由ヶ丘幼稚園の、「望ましい生活習慣の基礎」「集団生活に必要な基本的生活習慣をきちんと身につけさせる。」といった教育目標に示されている。さらに、それは、鞍手幼稚園の「みんなと楽しく、仲良く、行儀良く、遊んだり食事をしたり、勉強もできる」という教育目標に示されている。

このように、我が国における子ども中心の「自由主義的な幼児教育」と教師主導の「訓練主義的な幼児教育」という幼児教育の二つの基本型の教育目標は、九州女子大学附属幼稚園の教育目標に確かに継承されている。そして、その基底において、それらの教育目標においては、幼児の「自己活動」や「自発性」を促進することが目指されている。

ところで、教育作用において子どもの「自己活動」や「自発性」を高く評価する教育思想は、近代教育思

想の特質であり、また中心思想である。そして、その思想を徹底した者がフレーベルであった。勿論、「自己活動」や「自発性」の教育思想を教育に導入した思想家は、彼の前に少なくはない。周知のように、人間の「自己活動」あるいは「自発性」を重んずる思想は、18世紀の哲学者のライプニッツ (Gottfried Wilhelm Leibniz, 1646～1716) によって培われたものである。その思想は、自然界における不可分な「单子」(アトム) が宇宙の真の存在であるとし、しかもそれは「自発性」に基づいて万物の世界全体を把握することが可能となるものであるというものであった。⁽¹⁵⁾ そして、子どもの「自己活動」や「自発性」を尊重する思想は、その後、ルソー (Jean-Jacques Rousseau, 1712～1778) やペスタロッチ (Johann Heinrich Pestalozzi, 1746～1827) 等によって唱えられ、近代以降の教育思想の主流となったが、それはフレーベルによって最も徹底されたものであると考えられている。

そして、その「自己活動」や「自発性」は、自己の動機に基づいて、自己の興味と能力に支持される内的活動であり、子どもが、生活の中で、生活を満喫し、そこに興味を発見し、それを発達させることが可能なものである。フレーベルは、そうした「自己活動」や「自発性」を、重んずるというより、それを最も畏敬したとされており、だから彼は子どもの「自己活動」や「自発性」の「敬の教育者」だとされているのである。⁽¹⁶⁾

フレーベルの思想をふり返れば、その思想は、万物の中には永劫の理法が秘められ働き支配しているとし、人間の中にもその神秘的な理法が秘められているとし、だからその理法を外に表すことが人間の使命であるとするものであった。従って、フレーベルによれば、知的な理性的な生類としての人間の教育は、人間に、その理法を生き生きと認識させ表現させ開花させるものであった。フレーベルによれば、人間の教育者は、人間の本質を開花させ、実現させる教育者でなければならなかったのである。このことから、幼児教育は、人間の本質の「自己発展」のためにあると考えられるのであり、人間の「自己活動」や「自発性」を引き出し発展させることが、幼児教育の中心原理となっていなければならないのである。

福原学園を創立し、附属幼稚園を開園した福原軍造初代理事長は、自らの体験として、「人間の形成は母体に始まり、幼児期の教育によって性格づけられる」ことを信じ、⁽¹⁷⁾ そして、幼児教育に深い理解と見識をもっていた。⁽¹⁸⁾ そしてその幼児教育観は、九州女子大学附属幼稚園の以下のような園歌に表現されている。

○附属折尾幼稚園園歌 作詞 福原軍造

- 一 かわいいキリンやパンダたち 大きな へき画が待っている
小鳥も お花も こんにちは 今日も 仲良く 遊びましょう
楽しい よい子の 折尾幼稚園
- 二 電車も ごうごう見て通る きれいな 園舎 運動場
ブランコ シーソー すべり台 みんな元気に 遊んでる
強い子 よい子の 折尾幼稚園

○附属自由ヶ丘幼稚園園歌 作詞 福原軍造

- 一 緑の森の丘の上 お空にお日様笑ってる
蝶々がとんできて お花と挨拶おはようさん
僕も私も元気よく おけいこお遊戯いたしましょう
自由ヶ丘の幼稚園
- 二 赤、青、黄色、ガラス窓 お池にお魚およいでる
小鳥が飛んできて 柳と挨拶こんにちは
ロケットみたいなジャングルジムで みんな仲良く遊びましょう
自由ヶ丘の幼稚園

これらの歌詞には、「小鳥」「お花」「電車」「ブランコ」「シーソー」「すべり台」「お日さま」「緑の森」「丘の上」「蝶々」といった言葉が表現されている。そして、そこでは、それらに幼児が「自発的」に触れ合っ

つまり自己の環境や自然や人に触れ合って、その感情や意志を開花させ成長させていくことが期待され、重んじられているのであり、ここに幼児教育の中心原理が実現されているのである。

【4】我が国の幼児教育における教員養成の課題

我が国の幼児教育を担う最初の教員養成所は、1878（明治11）年に設置された東京女子師範学校の保姆練習科であるが、その後、明治20年代までには、各地に様々な形態の保姆養成機関が開設されていった。そして、それらの養成機関においては、教員の資質の向上が望まれていたが、「幼稚園そのものの普及発達に比べれば、教員の養成はむしろおくれ勝ちであり、また、他の学校の教員養成と比べても、著しくたちおくれてきた」とされている。⁽¹⁹⁾そして、その後、国公、私立の保姆の養成機関が徐々に増設され、それらの養成機関の中には、戦後まで継続された機関も少なくはなかった。

そして、戦後、1947（昭和22）年に学校教育法が施行され、幼稚園は学校の一種の教育機関とされ、保姆は教員と呼ばれるようになり、その資格は、1949（昭和24）年施行の教育職員免許法に規定された。その結果、幼児教育の教員養成機関についても根本的な変革が加えられた。即ち、そこでは、他の学校の教諭と同様に、原則として、大学における必要単位を修得することによって免許状を取得することが必要となったのである。そして、当初、幼稚園教員養成機関として課程認定を受けた大学の数は、国立39大学、公立1大学、私立4大学、公立2短期大学、私立1短期大学の合計47大学であったが、昭和40年代には、国立49大学、公立3大学、私立15大学、公立9短期大学、私立101短期大学の合計177大学となった。

では、こうした幼児教育の教員養成機関における教員養成の特質は何か。その最大の特質は、我が国の幼児教育の教員養成は女子教育との関連から具現化されてきたということである。1874（明治7）年、文部大輔田中不二麿は、東京女子師範学校附属幼稚園創立の伺書において、女子は「向來幼穉ヲ撫育スルノ任アレバナリ」とし、「女学ハ幼穉教育ノ基礎」という位置づけをし、女子教育の目的から帰納して幼稚園が設立され、女性の教育と幼稚園設立の関係は明確であったことが明らかである。⁽²⁰⁾

そして、その後の幼児教育の教員養成過程において、1890（明治23）年の小学校令では、幼稚園の教員の資格は、「女子ニシテ小学校教員タルベキ資格ヲ有スル者又ハ其他府県知事ノ免許を得タル者」と規定され、幼稚園の教員はその多くが小学校教員の資格を持つ女性の教員であるとされた。

このように、我が国における幼児教育の教員養成は、女子教育と強く連結して行われてきたが、フレーベルにおいても、幼児期の最初の保育においては、女性と子どもの生活とは不可分のものであり、女性の心情と子どもの生活とを分離することはできないとされ、幼児教育における女性の役割の重要性が把握されていた。フレーベルは、女性の職業や市民的・社会的義務の現実が、「女性と子どもたちの生活とのあいだに不自然なる分離」を作り出しているのであって、その結果、女性の生活と幼児との根源的な合一が獲得されなければならなくなり、幼児期の女性保育者が養成されなければならなくなっているとしたのである。即ち、フレーベルは、「母親の心の要求、かの女の希望、心配および努力と子ども、すなわち幼児期の必要との中間にたちいり、・・・ついで母親が最善の意思の下ですら子どもたちに対してありえないものであり、かの女が手渡しえないものおよびあたえないものを子どもたちに対して手渡しかつあたえる保育者が養成されることをつうじてのみ、この合一が再獲得されうる。」としたのである。⁽²¹⁾

しかし、フレーベルが、幼児教育における男性の役割を否定したとするのは偏見であり、フレーベルは、「少年に成熟しつつある幼児は、その特別な保育と指導に関しては、われわれ父親にゆだねられている」とし、幼児教育における父親の固有の役割を明確にしている。⁽²²⁾そしてその上で、フレーベルにとっては、母親と子どもとの間に、女性の保育者たちが養成されなければならなかったのである。では、その保育者の役割とは何か。保育者は、母親の代役と教育者として、子どもに将来の全生活の基礎と方向性を与えなければならなかったのである。フレーベルは、人間を、人間の中に人間の全本質を包含する「部分的全体」としてとらえ、だからこそ、幼児の「自己活動」による創造を、最も若き日から涵養し、陶冶し、開花させなければならぬと捉えたのであり、それがフレーベル教育学の第一の目標であり、最高の課題であり、幼児教育における教員養成の役割であったのである。⁽²³⁾

【5】まとめにかえて—幼児と保育者との「共同感情」について

幼児の「生活」のもつ教育的意義については、古来、コメニウス（Johannes Amos Comenius, 1592～1670）を初めとして多くの思想家によって強調されてきたが、今日の幼児教育においてもその意義は重大である。

生まれたての人間は、「乳呑み児」（Säugling）と称される。この時期の子どもにおいては、そのほとんど唯一の活動が「呑み込む」（einsaugen）という活動である。この段階の人間は、外界の多様性を受け取り、自分の中に取り入れ、それを呑み込むのである。そして乳児は、ひたすらに多種多様のものを外部から自己のうちに取り込み、呑み込むのである。従って、幼児教育においては、幼児が「病的なもの、下等なもの、下賤なもの、いかがわしいもの、いな悪いものの何ものも呑みこまない」ことが重要なのである。人間は幼少の時に呑みこんだものを、一生かかってもほとんど取り消すことができないと考えられるからである。従って、人間の初期の教育は、他のいずれの時期の教育よりも、後年の人間の成長にとって重要だとされるのである。⁽²⁴⁾ だからこそ、この時期の幼児には、清らかな空気と明るい光と清潔な光が必要なのであり、そしてこの時期の子どもを保育する保育者の「まなざし」は純粋でなければならないのである。

そして、自分にとって貴いものを受け取り、その「まなざし」を受け入れ呑み込んだ時の幼児の「微笑」が、幼児の生涯における最も重要な活動となるのである。そして、そこでは、同時に、その幼児の「微笑」が、幼児と母との、そして幼児と保育者や他の人間との「共同感情」（Gemeingefühl）をつくり出すのであり、幼児の人間発達における最大の感情形成が行われるのである。従って、子どもの「微笑」は、「最初は母親と子どもとの間の、次には父親や兄弟との間の、更に後には兄弟と大人達と子どもとの間の、肉体的な、なおそれより高次の共同感情にもその根拠をもっている」とされるのである。そして、その「共同感情」が十分に培われるほど、幼児の精神発達は大きくなると考えられるのである。

幼児の「微笑」は、それ以上のものでないにしても、少なくとも幼児の最初の身体的な「自発性」の表れでもあり、人間発達の原点として幼児教育において敬愛されなければならないのである。つまり、「眠りつつある子どもを・・・真心のこもったまなざしをもって、柔らかい安全な寝床に寝かせる時、それは静かにそっとかきまみている観察者を感動させるばかりではなくて、子どもに対しても永遠の幸福と祝福とをもたらすものである。」と、理解されなければならないのである。⁽²⁵⁾

これらのことから、幼児教育においては、生活の中での幼児の「自発性」に基づく「微笑」と、それに対する母親や保育者との「まなざし」による「共同感情」によってこそ促進されるという原則をふまえることが重要になる。そして、フレーベルは、人間性の保育は、女性的心情にとくに身近なものであるとしたが、ここに、幼児教育と我が国の女子大学における保育者養成の役割があると考えられる。九州女子大学附属幼稚園においては、フレーベルの思想にも通じる「人間の形成は母体に始まり、幼児期の教育によって性格づけられる」という創立者である福原軍造初代理事長の信念の基に、「附属幼稚園としての特性を生かし、大学との連携を深め、望ましい幼児像が達成されるように援助と励ましにつとめる。」⁽²⁶⁾ 教育が行われてきた。従って、今後、附属幼稚園と女性保育者を養成する九州女子大学が互いに連携し、それぞれの教育をより充実させることがさらに一層期待される。

【6】注及び参考文献

- (1) 文部省『幼稚園教育九十年史』、ひかりのくに昭和出版、1969（昭和44）年、1頁。
- (2) 上笙正一郎他著『日本の幼稚園』、理論社、1974（昭和49）年、16～26頁。
- (3) 岸信行著「フレーベル教育学における『幼稚園』創設の根本理念」、『中央大学論集』第9号、1988（昭和63）年、11頁。
- (4) 玉村公二彦他著「奈良女子師範学校附属昭徳幼稚園における保育理念と保育案」、『次世代教員養成センター研究紀要』第2巻、2016（平成28）年、227頁。
- (5) 文部省『幼稚園教育九十年史』、前掲書、105頁。
- (6) 同上書、46頁。
- (7) 同上書、145頁。

- (8) 同上書、85頁。
- (9) 同上書、118頁。
- (10) 同上書、136～137頁。
- (11) 池田祥子他著『戦後保育50年史』、日本図書センター、2014（平成26）年、29頁。
- (12) 学校法人福原学園『自律処行 福原学園50周年記念誌』、西日本新聞印刷、1997（平成9）年、179～180頁。
- (13) 同上書、190頁。
- (14) 荘司雅子著『幼児教育の原理と方法』、フレーベル館、1965（昭和40）年、45～86頁。
- (15) 長田新著『フレーベルに還れ』、フレーベル館、1955（昭和30）年、98頁。
- (16) 同上書、99～100頁。
- (17) 学校法人福原学園『自律処行 福原学園50周年記念誌』、前掲書、186頁。
- (18) 貞方友明九州女子大学附属幼稚園総括園長から詳細を拝聴した。
- (19) 文部省『幼稚園教育九十年史』、前掲書、165頁。
- (20) 岩崎次男著『近代幼児教育史』、明治図書、1979（昭和54）年、287頁。
- (21) フレーベル著、岩崎次男訳『幼児教育論』、明治図書、1972（昭和47）年、92～94頁。
- (22) Fröbel, Friedrich; Die Menschenerziehung, herausgegeben von Erika Hoffmann, Verlag Helmut Küpper Vormal's Georg Bondi, 1951, S.55. (フレーベル著、岩崎次郎訳『人間の教育1・2』、明治図書、1960年。)
- (23) 荘司雅子著『フレーベルの教育学』、大八州出版、1947（昭和22）年、279～284頁。
- (24) Fröbel, Friedrich; A.a.O., S.19.
- (25) Fröbel, Friedrich; Ebenda, S.23.
- (26) 『自律処行 福原学園50周年記念誌』、前掲書、190頁。

Consideration about the characteristic of the preschool education of our country and the educational philosophy of Kyushu Women's University Kindergarten

Koji KURODA, Shoko IMAZU

Department of Education and Psychology, Faculty of Humanities, Kyushu Women's University

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, 807-8586, Japan

An abstract

Generally speaking, in the history of modern education after the Meiji era of our country, preschool education of the liberalism based on “the spontaneous activity” of the infant has been performed, and preschool education of the principle of training based on “discipline” has been performed also. And the aim of the liberalism preschool education has been succeeded to as the aim of the educational method that makes much of freedom and voluntary activity in today's kindergarten education. In addition, the aim of the education in preschool that is like the principle of training is succeeded to as the aim of the preschool education of letting an infant arrange a personal thing. Furthermore, in preschool education it is important that a childminder brings up “the general feelings” from “the spontaneous activity” “the smile” of infant. Being based on mind of the establishment, such an education target has been succeeded to till now, so the education of the kindergarten attached to Kyushu Women's University will advance more in future by the characteristic of the kindergarten attached to Kyushu Women's University.

Key words : spontaneous activity, discipline, general feelings